

(別紙5)

補助事業番号 28-1-102  
補助事業名 平成28年度 青少年の健やかな成長を育む活動 補助事業  
補助事業者名 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

音楽を通じて、青少年の情操教育の推進を図り、その成果を広く一般に発表し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

秋季演奏会（第2回オータム・コンサート）・春季演奏会（第17回演奏会）の実施

<http://mitaka.jpn.org/ticket/1610160/>

<http://mitaka.jpn.org/ticket/1703200/>

「第2回オータム・コンサート」では、前半は有志のアンサンブルコーナーとし、後半は弦楽合奏と管・打楽器によるアンサンブルを1作品ずつ、そして最後に全体合奏というプログラム構成になった。有志によるアンサンブルの内訳は、デュエットが2組、弦楽四重奏とチェロ・アンサンブルが各1組の合計4組となり、弦楽器が活躍した。今年度は、クラシックだけではなく、タンゴの作品に挑戦するグループもあった。管・打楽器によるアンサンブルでは、ピアノ作品をアレンジした親しみやすい作品を演奏する一方、弦楽器は、20世紀に作曲された作品に挑戦した。全体合奏の演奏した作品は、講師陣が所属するオーケストラの定期演奏会で演奏しており、その演奏を聴いていた団員は、作品の全体像をいち早く理解し、講師が想定していた時期よりも早く完成させることができた。一方で、堂々した作風であることから、重厚感のある音を出すことに時間を要した。ただ大きな音を出すのではなく、弓の使い方や重心の位置、椅子の座り方などを見直し、技術面だけでなく、講師陣が実際の演奏活動で経験してきたことを団員たちに伝授することで、大きく変化した。

第17回演奏会では、実に6年半ぶりとなるピアノ協奏曲と交響曲の全楽章に取り組んだ。ピアノ協奏曲では、指揮者の内藤佳有氏による独奏で、指揮も行なういわゆる「弾き振り」というスタイルでの演奏だった。作品の全体のイメージを早くつかめるよう、初期段階から独奏ピアノと共に練習を重ね、各パートのトップの団員が意識を持って、他のパートを牽引していた。交響曲とは違ったスタイルを学ぶこ

(別紙5)

とができ、何よりも身近にいる指揮者のピアノ演奏と共演できることに団員たちは非常に喜びを感じていた。

交響曲の全楽章の演奏では、4つの楽章それぞれの特徴を理解して演奏することを課題とした。テンポの速い楽章では、細かい部分の旋律やリズムを速度を落として練習し、徐々にテンポを上げていき、緩徐楽章では、抑揚や表情の変化を表現することが難しいため、分奏指導を繰り返し行い、より高い完成度を目指すことができた。



秋季演奏会



春季演奏会

#### コミュニティ・センター訪問演奏会と高齢者福祉施設訪問演奏会

平成28年度より三鷹市内のコミュニティ・センターへの訪問演奏会を開催するとなり、11月に牟礼コミュニティ・センターで演奏会を開催した。演奏会の概要は、1時間のコンサートとすること、入場無料で誰でも入場可とすることにした。さらには、牟礼に在住していた詩人、三木露風が作詞した童謡「赤とんぼ」を演奏することになった。老若男女の人々に演奏を楽しんでいただくため、クラシック、童謡、映画音楽、アニメソングなど、ジャンルを問わず、親しみやすい作品6作品を演奏した。当日、会場には、197名が来場した。赤ちゃん連れのご家族や、高齢の方、車いすに乗った方も来場された。多くのお客様がいらしてくださったことで、団員たちも期待が高まり、会場はとても温かい雰囲気であった。

高齢者福祉施設訪問演奏会は、三鷹市内にある「けやき苑」へ初めて訪問した約45分のプログラムには、主に童謡・唱歌をはじめ、入所されている方が懐かしいと思っただけのような昭和30年代の歌謡曲も初めて取り入れた。入所者の中には、演奏を耳にした途端、目を輝かせて聴いてくださったという。終演後は、入所者からの質問に答えるコーナーを設けた。楽器を始めたきっかけや、練習時間をどれ位設けているのかなど、質問をいただいた。最後は「また来て演奏して欲しい」、「これからもオーケストラの活動を続けて欲しい」などの激励の言葉もいただいた。

(別紙5)



コミュニティ・センター訪問演奏会



高齢者福祉施設訪問演奏会

## 2 予想される事業実施効果

平成28年度は、特にコミュニティ・センターでの演奏会を通じて、みたかジュニア・オーケストラの知名度と共に、どのような活動をしているのかをさらに周知する必要があると痛感した。実施後のアンケートには、「名前は知っていたが、演奏は初めて聴いた」や「今後はホールで聴いてみたい」という方が多かった。さらに秋季・春季演奏会では入場できない、乳幼児を連れた方も多く見受けられた。今後、訪問演奏会を継続することができれば、三鷹市民を中心とした人々に演奏を聴いていただく機会が増え、オーケストラへの関心や楽器への関心が高まると予想する。さらには、演奏を聴いたことで、今度はホールで音楽を聴いてみようと思われる方も増えれば、演奏会の集客にもつながると考えている。

一方、秋季・春季演奏会では、日頃の成果を発表する機会であることから、一つ一つの作品を着実かつ丁寧に仕上げ、聴衆に聴いていただく必要がある。中でも、秋季演奏会で披露するアンサンブルは、特に小中学生の団員にとって、憧れの舞台となっている。上級生の演奏を聴くことで、新たな目標を見出し、いつかは自分もアンサンブルの一員として舞台に立ちたいと考えている団員は少なくない。同じ舞台に立つとは言え、オーケストラの演奏とは違った緊張感や責任感が伴うため、継続が必要だと考える。日々の練習では、目の前にある楽譜を演奏するだけに留まらず、作品の時代背景を理解し、作曲された当時の奏法を学ぶことが大切だと考えている。また、演奏だけではなく、団員自身が曲目を解説した上で演奏するなど、聴衆が作品の概要を知った上で演奏を聴いていただくことで、はじめて聴く作品でも、関心を持って聴いていただけるような工夫が必要だと考える。聴衆がホールを去る際に「また聴きに行きたい」と思っていたくことが、ファンの獲得に繋がると考える。

## 3 補助事業に係る成果物

### (1) 補助事業により作成したもの

(別紙5)

- ・第2回オータム・コンサート チラシ 30,000部
- ・第2回オータム・コンサート ポスター 300部
- ・第2回オータム・コンサート パンフレット 580部
- ・Mitaka Arts News特別号(新聞折込広告) 150,000部
- ・第17回演奏会 チラシ 30,000部
- ・第17回演奏会 ポスター 300部
- ・第17回演奏会 パンフレット 580部

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの  
なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団  
(コウエキザイダンホウジンミタカシスポーツブンカザイダン)

住 所 : 〒181-0012  
東京都三鷹市上連雀6-12-14

代 表 者 : 理事長 内田 治(ウチダ オサム)

担 当 部 署 : 芸術文化課(ゲイジュツブンカカ)

担 当 者 名 : 公会堂担当 吉田 歩(ヨシダ アユミ)

電 話 番 号 : 0422-29-9868

F A X : 0422-43-6146

E - m a i l : a-yoshida@mitaka-sportsandculture.or.jp

U R L : <http://mitaka-sportsandculture.or.jp/geibun/mjo/>